

道内の化石展示施設に行ってみよう！

北海道では、恐竜やアンモナイトだけではなく、恐竜たちが絶滅した後に繁栄した、デスモスチルスやマンモスゾウなどの化石がいくつもみつっています。これらの化石は、道内各地の展示施設でみることができます。また北海道庁ではこれらの化石の魅力をより多くの皆様に知ってもらうため、「北海道恐竜・化石ネットワーク研究会」を設立し、さまざまな取組を行っています。ぜひ、各地の展示施設をめぐり、化石を通してみた北海道のスゴさを体験して下さい。

北海道大学総合博物館



ロシア(樺太)やモンゴル、カナダの恐竜化石などが展示されています



むかわ町穂別博物館



クビナガリュウやアンモナイトなどの実物化石や復元模型を展示



三笠市立博物館



約600点のアンモナイト化石が並ぶ日本一のアンモナイト博物館



中川町 エコミュージアムセンター



中川町で発見された恐竜や首長竜、アンモナイト化石などを展示



小平町文化交流センター



1987年に発見されたクビナガリュウの全身骨格模型を展示



足寄動物化石博物館



20体以上の全身復元骨格から『恐竜後』の海の世界を学ぼう



北海道博物館



ナウマンゾウやマンモスゾウなどの実物化石、全身復元骨格を展示



北海道恐竜・化石 ネットワーク研究会



道内で発掘・展示されている恐竜や古生物化石の魅力を発信



この他の化石を展示する施設は右記のQRコードでご覧ください。



北海道博物館特別企画展「北海道の恐竜」

○会 期: 2021年2月12日(金)～3月14日(日)
○編集・発行: 北海道博物館
004-0006 札幌市厚別区厚別町小野幌 53-2
011-898-0456
○発 行 日: 2021年2月12日

北海道博物館特別企画展

北海道の恐竜

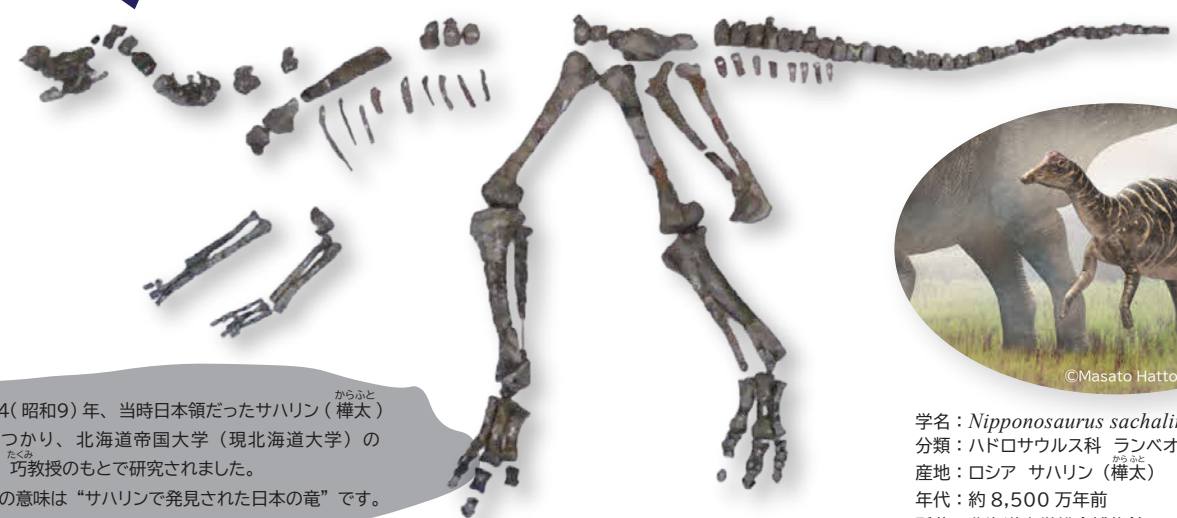
北海道むかわ町穂別でみつかったカムイサウルス(むかわ竜)が生きていたころ、“海”にはクビナガリュウやアンモナイトが、“空”にはプテラノンのなかがいました。本展示会では、これまで北海道で研究された7つの恐竜化石を初めて一挙に公開し、北海道の恐竜世界を紹介します。



ホベツアラキリュウ
©Masato Hattori

日本で初めて研究された全身骨格恐竜化石

ニッポノサウルス・サハリネンシス



1934(昭和9)年、当時日本領だったサハリン(樺太)でみつき、北海道帝国大学(現北海道大学)の長尾 巧教授のもとで研究されました。学名の意味は“サハリンで発見された日本の竜”です。



学名: *Nipponosaurus sakhalinensis*
分類: ハドロサウルス科 ランベオサウルス亜科
産地: ロシア サハリン(樺太)
年代: 約8,500万年前
所蔵: 北海道大学総合博物館

北海道で最初みつかった恐竜化石

ハドロサウルスのなま



だいたいにつ びだり ちようこつ こつばん みぎ いち ぶ
大腿骨(左)と腸骨(骨盤)(右)の一部

学名: 属種不明
分類: ハドロサウルス科
産地: 小平町
年代: 約8,500万年前
所蔵: 小平町教育委員会



©Masato Hattori

北海道で2番目にみつかった恐竜化石

ノドサウルスのなま



どうこつ いち ぶ
頭骨の一部

学名: 属種不明
分類: アンキロサウルス類 ノドサウルス科
産地: 夕張市
年代: 約1億年前
所蔵: 三笠市立博物館



©Masato Hattori

北海道で3番目にみつかった恐竜化石

テリジノサウルスのなま



つめ いち ぶ
爪の一部

*このほかにも、小さな爪や骨の化石もみつっています

学名: 属種不明
分類: テリジノサウルス類
産地: 中川町
年代: 約8,300万年前
所蔵: 中川町エコミュージアムセンター



©Masato Hattori

北海道で4番目にみつかった恐竜化石

カムイサウルス・ジャポニクス（むかわ竜）

学名：*Kamuysaurus japonicus*
分類：ハドロサウルス科 ハドロサウルス亜科
産地：むかわ町穂別
年代：約 7,200 万年前
所蔵：むかわ町穂別博物館



少なくとも 230 個の骨化石がみつきり、体全体の約 80% になります。
これだけの骨がそろっている恐竜化石は、日本でも初めてであり、日本の
恐竜研究史に大きなインパクトをもたらしました。北海道を、そして日本を
代表する恐竜化石として、アイヌ語「カムイ」を取り入れ “日本の竜の神”
を意味する学名がつけられました。



©Masato Hattori

北海道で5番目にみつかった恐竜化石

ティラノサウルスのなかま



び ついに つ いち ぶ
尾椎骨の一部

学名：属種不明
分類：ティラノサウルス類
産地：芦別市
年代：約 8,700 万年前
所蔵：三笠市立博物館



©Masato Hattori

北海道でみられる白亜紀の地層は、ほとんどが海でできた地層です。これらのすべての恐竜化石は、海でできた地層からみつかっています。陸にすんでいた恐竜たちは、なんらかの影響で海に流されたあと、海にすんでいたアンモナイトやクビナガリユウなどと一緒に海底に沈み、化石になりました。また、同じ地層からは、空を飛んでいたプテラノドンのなかまの化石もみつかっています。そのため、北海道は恐竜時代の“海と陸の両方の世界”を知ることができる、世界でも貴重な化石の産地なのです。

2021年1月には、むかわ町から道内6番目となる恐竜化石がみつかったと報告されました。この化石は、今まさに研究が進められており、新種の可能性もあるとのこと。当時、どのような恐竜たちが、どのような世界でくらしていたのか——。

北海道を舞台にした恐竜世界へのワクワクは、まだまだ続きそうです！